

令和4年度 PFSを活用した認知症検診事業 導入の経緯及び実施結果

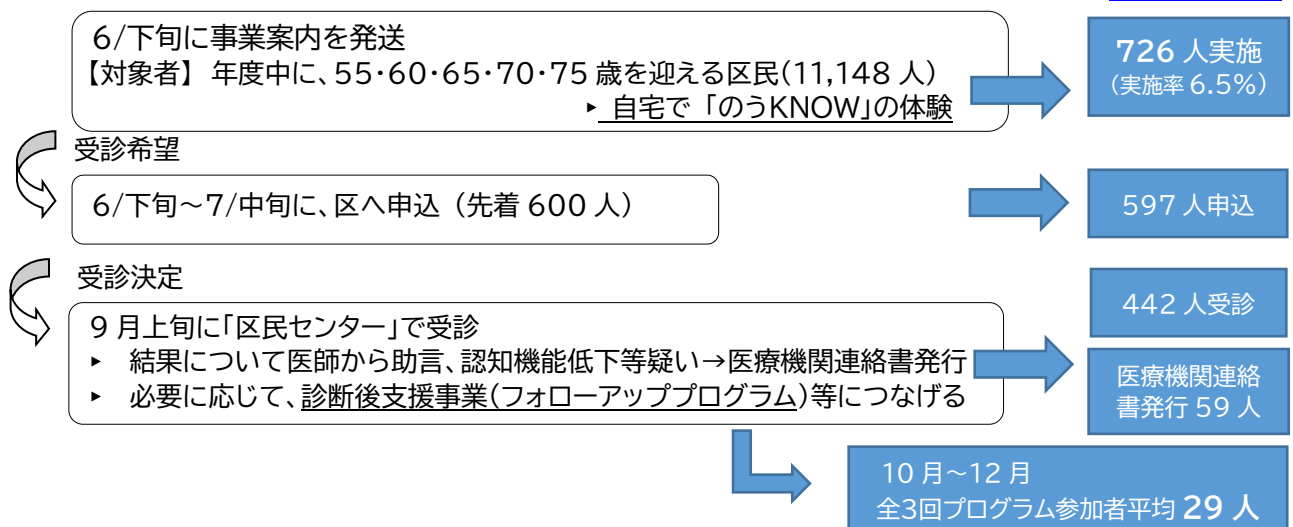
1 (令和3年度) 認知症検診事業の開始 ※R3は、委託事業による

目的	認知症の普及啓発と早期支援を目指す。脳の健康度測定にあたっては、エーザイが日本向けに開発したデジタルツール「のうKNOW(ノウノウ) *」を使用。 また、受診結果に応じて、受診勧奨の外、診断後支援事業等につなげる。
----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

* のうKNOW…表示されるトランプカードの記憶・判断等により、脳の健康度を測定(非医療機器)

● 事業概要

● 事業実績



2 (令和4年度) PFS(成果連動型民間委託契約方式)を活用した 認知症検診事業の実施

(1) PFSの導入について

目的	官民一体で、社会的課題の解決を目指す新たな仕組みとして、エーザイとの契約の一部に「PFS」を導入し、より成果の高い事業を目指す。
----	------------------------------------------------------------------

● PFSの特徴

㊦成果指標の設定、㊧成果の改善状況に連動した段階的支払の設定、㊨受託事業者独自の取組を取り入れての事業実施、㊩事業終了後、「評価検討会」の実施

	PFS の取組内容	R4 成果指標	成果指標の考え方	R3 実績
I	認知機能テスト(自宅版)の実施者数の増加	上限1,200人 1,101人以上で 目標達成とする。	対象者(約12000人)のうち、10%は自宅等でセルフチェックをして欲しい(R3実績は6.5%)。	726人(実施率6.5%)
II	生活習慣改善プログラム(3回制)への参加者の増加	上限60人 定員7割超の参加(41人以上)で 目標達成とする。	講座について、約3割は都合が合わなくなる等で、欠席する傾向がある。	29人

(2) PFSの実績について (評価期間:R4.12.31まで)

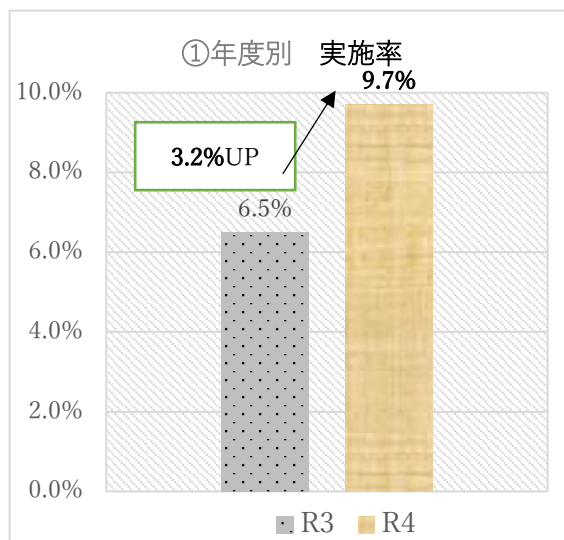
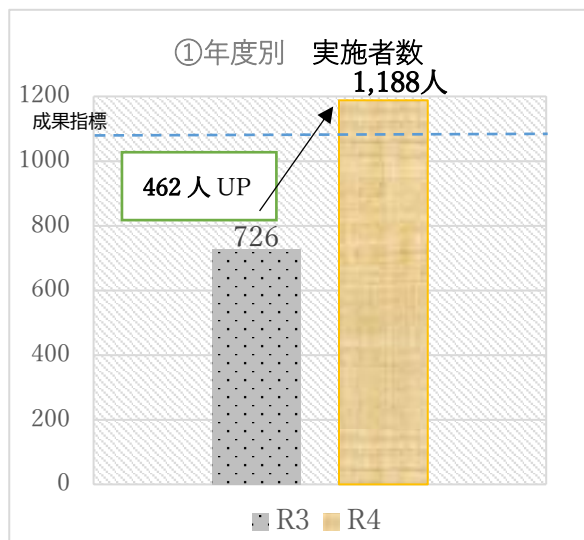
	R4 成果指標	R4 実績(PFS)	目標達成率
I	1,101人以上	1,188人	108%
II	平均41人以上	平均45人	110%

(3) グラフで見る前年度との実績比較

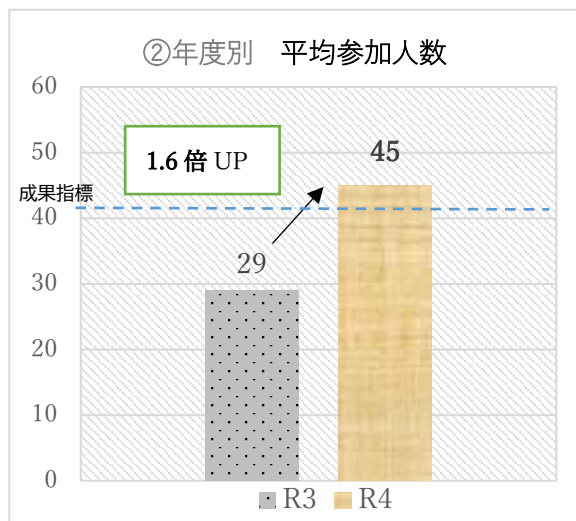
I 認知機能テスト(自宅版)の実施 **確定: 1,188人**

● 受託者の取組

- ・ 「脳の健康について」区民公開講座開催、のうKNOW体験ブース設置(7月)
- ・ 検診会場での自宅版のうKNOW実施勧奨(9月)
- ・ CATV を活用して「自宅での認知機能テストの測定方法」について説明(11月)
- ・ 実施率の低い65歳以上(65.70.75歳)に、のうKNOW再送の実施(11月)
- ・ デジタルデバイド対策で、自宅での実施が難しい人向けに会場で「体験会」の実施(12月)



II 生活習慣改善プログラム(3回制)への参加 **確定: 3回平均 45人**



● 受託者の取組

- ・ 本プログラムのチラシを作成し、認知症検診会場で認知機能低下の疑いのある受診者に配付(9月)
- ・ 認知症検診会場にて、生活習慣改善プログラムの一つとして行う「運動プログラム」のブース設置及びミニ体験会の実施(9月)